

生体情報モニタ

仕様書

小児医療センター

1. 調達物品

統合モジュール 一式

- | | |
|---------------------------|-----|
| ・ 統合モジュール | 51台 |
| ・ マイクロストリームC02拡張モジュール | 22台 |
| ・ 3電極患者ケーブル〈12ピン270cm〉 | 51個 |
| ・ フィリップス0ximax用アダプタケーブル | 51個 |
| ・ 新生児用NIBPカフ接続チューブ(300cm) | 51個 |

2. 納入場所

2-1. 小児医療センター（埼玉県さいたま市中央区新都心1-2）

- ・ 機器内訳：統合モジュール 51台、マイクロストリームC02拡張モジュール 22台
 - ・ 納品部署：NICU、GCU
- ※設置部署は必ず病院担当者と打ち合わせをおこなうこと。

3. 納入期限

- ・ 令和8年3月31日（火）とする。
- ・ 機器搬入日時は、病院担当者と調整をおこなうこと。

4. 調達物品の主な仕様

- ・ 別紙を参照すること

5. 納入条件等

- 5-1. 物品の搬入、据付及び調整に当たっては、納入場所の担当者の指示を受けること。
- 5-2. 物品の搬入、据付及び調整に要する経費は、受注者の負担とすること。
- 5-3. 物品の搬入、据付及び調整の上、納入場所の担当者の確認を受けること。
- 5-4. 納品時に当センターの機器、設備、建築物等に損害を与えた場合は、受注者の責任と費用負担により原状回復させること。
- 5-5. 納入後1年間の品質不良、変質、その他隠された瑕疵について補修、交換、各種調整、トラブル対応に、無償で対応すること。
- 5-6. 機器の取扱い・操作方法について、十分な説明・指導を行うこと。
- 5-7. 搬入に際し、発生した梱包材料等は持ち帰ること。
- 5-8. 納品する物品は、すべて新品であること。
- 5-9. 平日(土・日・祝祭日除く)の9：00から17：00に故障の連絡を受けた場合は速やかに対応できる体制であること。
- 5-10. 技術的問い合わせの連絡窓口を用意すること。
- 5-11. 既存機器について病院担当者からの指示があった場合、センター敷地内の指定場所への移動を行うこと。
- 5-12. 既存機器の廃棄については、別途契約とする。
- 5-13. ソフトウェアは最新版のフル装備のものとし、設置後1年以内におけるバージョンアップに関しては無償で提供すること。
- 5-14. その他不明な点は、病院担当者の指示に従うこと。

別紙（4 調達物品の主な仕様）

項番	仕様内容文
4－1	本体ディスプレイは、対角6.1インチ以上、解像度1024 x 480ドット以上のカラーディスプレイであること。
4－2	モニタ本体の消費電力は<20Wと省電力設計であること。
4－3	本体は、搬送に適当なように一体型かつ、バッテリーを含んで1.4kg以下の重量であること。
4－4	搬送時の取り扱いを考慮し取っ手(ハンドル)が装備されていること
4－5	状況に応じて測定項目を増設し搬送中も使用できること
4－6	本体内蔵の充電式バッテリーおよびA C 電源による動作が可能なこと。
4－7	バッテリー状態を知らせるインジケータが付属しており、およそ残量時間が表示されること。
4－8	バッテリーによる連続使用は仕様上、5時間以上可能なこと。
4－9	バッテリーは特別な充電器を用いずに、ホストモニタ本体からの供給にて充電可能なこと。
4－10	心電図やS P O 2、非観血血圧等の患者ケーブルは既設ベッドサイドモニタと共通して使用可能なこと。
4－11	搬送時には、ベットサイドモニタから外してそのまま搬送用モニタとして使用できる機能を有すること。
4－12	搬送時を考慮し、心電図・呼吸、SPO2、非観血血圧、体温は、一つのモジュールとして統合されていること。
4－13	統合モジュールは、無線機能を有しており、ホストモニタから取り外されて搬送中にも、測定データをベッドサイドモニタ画面に表示するとともに、セントラルモニタの同一セクタに統合して表示する機能を有すること。
4－14	電源供給が目視にて確認できるようインジケータが装備されていること。
4－15	マルチタッチスクリーンによる、1本または2本指でのスワイプ操作やタップ操作が可能なこと。
4－16	タッチスクリーンの機能を、一時的に機能しないようなロック機能を有すること。
4－17	スクリーンにはAntimicrobial Corning® Gorilla® Glassが採用されていること。
4－18	画面レイアウト、パラメータ設定、モニタ設定3つのカテゴリをあらかじめ組み合わせて設定し、例えば症例ごとに管理・変更可能な、プロフィール機能を有すること。またプロフィールは20以上初期設定が出来る機能を有すること。
4－19	患者タイプ（成人、小児、新生児）に合わせて、パラメータの処理方法や計算方法、および患者に適応される安全範囲やアラーム設定値を決定できる機能を有すること。
4－20	搬送用モニタは、搬送後に使用を開始するベッドサイドモニタに直接接続が可能であり、生体情報入力部としても継続してその動作が可能であること。
4－21	4波形以上の表示が可能であること。
4－22	各測定項目の表示色が選択できること。
4－23	どの画面からでもワンタッチでモニタリング画面に戻る事ができること。
4－24	2本指で画面を左右にスワイプする操作で簡易に画面を切り替えられること。
4－25	画面上のパラメータ表示項目に時刻クロックがデジタル表示・アナログ表示とも任意に選択でき、その拡大表示が可能であること。
4－26	画面上にモジュールの接続状態を確認可能なアイコンを配していること。
4－27	心電図の測定仕様は、ANSI/AAMI/IEC 60601-2-25:2011に準拠していること。
4－28	モニタ本体で5電極ケーブルにより12誘導心電図を連続モニタリングする機能を有すること。
4－29	検出されたすべての不整脈アラームが出力されることによる混乱を防止し、重大性の低いアラームのためにより重大なアラームに気づかない危険性を排除するため、不整脈の種別により、3種類以上に分類をして優先順位をつける、不整脈アラームチェーン機能を有すること。チェーン内で複数のアラームが発生した際に、最も優先度の高いアラームを出力されるアルゴリズムを有していること。

- 4-30 不整脈のアラームチェーンにおいて、特定のアラーム発生後に、同一チェーン内の優先順位が低い不整脈アラームを一定時間出力しないタイムアウト時間を設定可能であること。
- 4-31 心電図測定は、25種類以上の不整脈解析機能を有すること。その際に、心房細動の検出を行うこと。
- 4-32 呼吸（RR）は、成人/小児：0～120 rpm、新生児：0～170 rpmの範囲で計測可能なこと。
- 4-33 呼吸を検出するトリガポイントを自動ならびに手動でレベル設定可能な機能を有すること。手動検出を選択した場合、呼吸波形上に点線で検出レベル線が表示され、適切なレベルに設定する機能を有すること。
- 4-34 SpO2は1～100%の範囲で測定が可能であること。
- 4-35 SpO2は脈波波形からの脈拍数測定は30～300 bpm範囲以上で測定が可能なこと。
- 4-36 SpO2は酸素飽和度の変化に応じてQRS音の音程が変化する機能を有していること。
- 4-37 SpO2は Nellcor OxiMax SpO2テクノロジーを搭載し、オキシマックスセンサー（ソフトケアセンサー、額用MAX-FASTセンサー含む）を外部インタフェースボックスなどを使用せずに直接接続可能であること。
- 4-38 SpO2アラーム設定は、下限値を下回る任意の値をディサチュレーションアラームとして別途設定可能であること。
- 4-39 動脈血の拍動成分により発生する拍動信号の測定値を示す、循環数値（パーフュージョンインデックス値）が測定時に表示可能であること。
- 4-40 非観血血圧の測定に際し、患者タイプにより「成人」「小児」「新生児」のそれぞれに適応した最大測定時間、初期加圧値、過剰カフ圧設定値が設定されていること。
- 4-41 非観血血圧の測定から任意の経過時間で、誤認識を防止するために表示をグレイアウトもしくは消去することが可能であること。
- 4-42 非観血血圧測定には、あらかじめ設定されたカフ圧までカフを膨張させて、静脈血を駆血し静脈血管を浮きあがらせ静脈ラインを確保できる、駆血モード機能を有すること。
- 4-43 非観血血圧測定時の心拍数は、40～300 bpmの範囲で計測ならびに表示可能であること。
- 4-44 観血血圧測定は－40～360mmHg範囲以上で測定ができること。
- 4-45 観血血圧による脈拍数は、25～350 bpmの範囲で計測可能であること。
- 4-46 血圧ラベルを、c h 毎に任意に選択可能であること。また、各々のラベルはケーブル接続後に変更可能であること。
- 4-47 血圧ラベルは、34項目以上の選択肢を有すること。
- 4-48 体温は-1～45℃範囲以上で測定が可能なこと。
- 4-49 体温ラベルが c h 毎に設定できること。
- 4-50 体温ラベルは、15項目以上の選択肢を有すること
- 4-51 CO2測定は、メインストリーム方式またはサイドストリーム方式で測定可能なこと。
- 4-52 CO2分圧測定におけるETCO2はマイクロストリーム方式で0～150mmHgまたは20%CO2のどちらか低い方まで測定可能なこと
- 4-53 CO2による呼吸数測定は、マイクロストリーム方式で0～150 rpmの範囲であること。
- 4-54 CO2測定時のサンプル流量は、マイクロストリーム方式で50+15/-7.5 ml/分であること。
- 4-55 CO2はマイクロストリーム方式で、5分以内のウォームアップ時間で精度保証範囲で稼動可能であること。
- 4-56 統合モジュールは当院既設の生体情報モニタと連携し使用することが出来ること。また、当院の重症ユニット間で共通使用可能であること。
- 4-57 搬送時を考慮し、統合モジュール内にバイタルサインデータ、設定情報、患者情報の各データが保持可能であり、重症ユニットのセントラルモニタと連携できること。